

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	杜っこ地域福祉事業所		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日 ～ 2025年 2月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24 (回答者数)	24
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日 ～ 2025年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの意思を尊重した支援をしている。子どものやりたいという意欲を引き出し、出来ることにフォーカスし成長を促す。そこに伴い出来ることが増え子どもの自信にも繋がっている。	・活動内容は子どもたちと一緒に考え決めるように話し合いをしている。また、個別活動も一緒に考えることもあるため、子どもたちの他児への思いやりが多々見られる。 ・チャレンジ精神を育むため、小さな成功体験ができる活動から考えている。	・子どもたちの「楽しい」「もっと来たい」に答えられるように、今後も子どもたちと信頼関係をつくり、保護者と相談しながら、子どもたちを一番考えた活動等を考えていく。
2	事業所の活動指針をもとに、個別支援計画を子どもの特性に合わせて作成している。職員全員が関わり、保護者や関係機関と連携し相談・確認しながら丁寧に検討している。	毎日の支援前と支援後の打合せで振り返りと今後の支援方法などを構築している。職員に対しても子どもたちに対しても傾聴を改善できるように心がけている。	その子とその子らしく楽しく過ごし生活に必要なスキルを身に着けられるように他関係機関との連携を密にしていく。
3	子どもたちと一緒に職員も楽しく遊び、体系的なコミュニケーションを積極的に取っている。職員や事業所全体が明るい雰囲気だと子どもたちも自然と笑顔になり「楽しめる場所」になっている。	日頃から職員間のコミュニケーションは取るようにして関係性を構築している。職員に対しても子どもたちに対しても傾聴を大事にした、個性を認め合う関りを大事にしている。	みんなでつくり上げる事業所として、子どもたちを中心に保護者と相談しながら信頼関係を築き積極的なコミュニケーションを図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童クラブや児童館、地域の子どもたちとの関りがすくないこと。	同法人の児童館イベントには土曜日や長期休みなど時間があるとき時々参加している程度で、放課後の時間は帰りの時間が異なっているので時間を取るのが難しい。 ・公園等での活動中に地域の子どもたちと積極的に関わろうとはしているが利用児の対応であいさつ程度の関りしかできない時が多い。	事業所からの積極的な関りは人員体制に余裕がないと難しい面もあり、体制が必要と感じる。また、双方の理解や協力など歩み寄りがあれば成り立たないことでもあるため、こまめにかかわりを持ち理解を得られるよう関係をつくっていく。短い時間でも関われるような場面を個々に応じて設けていく。
2	各マニュアルの策定はしてあるが、保護者へ周知できていない部分がある。	各マニュアルの策定や見直しがあっても保護者へ周知する機会を設けられていなかったことが大きな要因。	見直しは職員全員で行い、入所時や面談の時に時間を設けた。また変更時はその都度周知できるよう全員で確認していくことが必要。
3	室内の広さや場所の確保について不十分さを感じる時がある。	利用人数が増えることに伴い、職員数も増やすため人口密度は高くなってしまふ。また、活動室にテーブルが二台あるなど家具や物が多いと感じる場面がある。	必要時以外は端に寄せたり片づけることで、遊びの場所の確保をしていく。また、今後も個々の状況に合わせてながら外出と室内など活動を二つに分けるなどして広く使えるように配慮していく。